

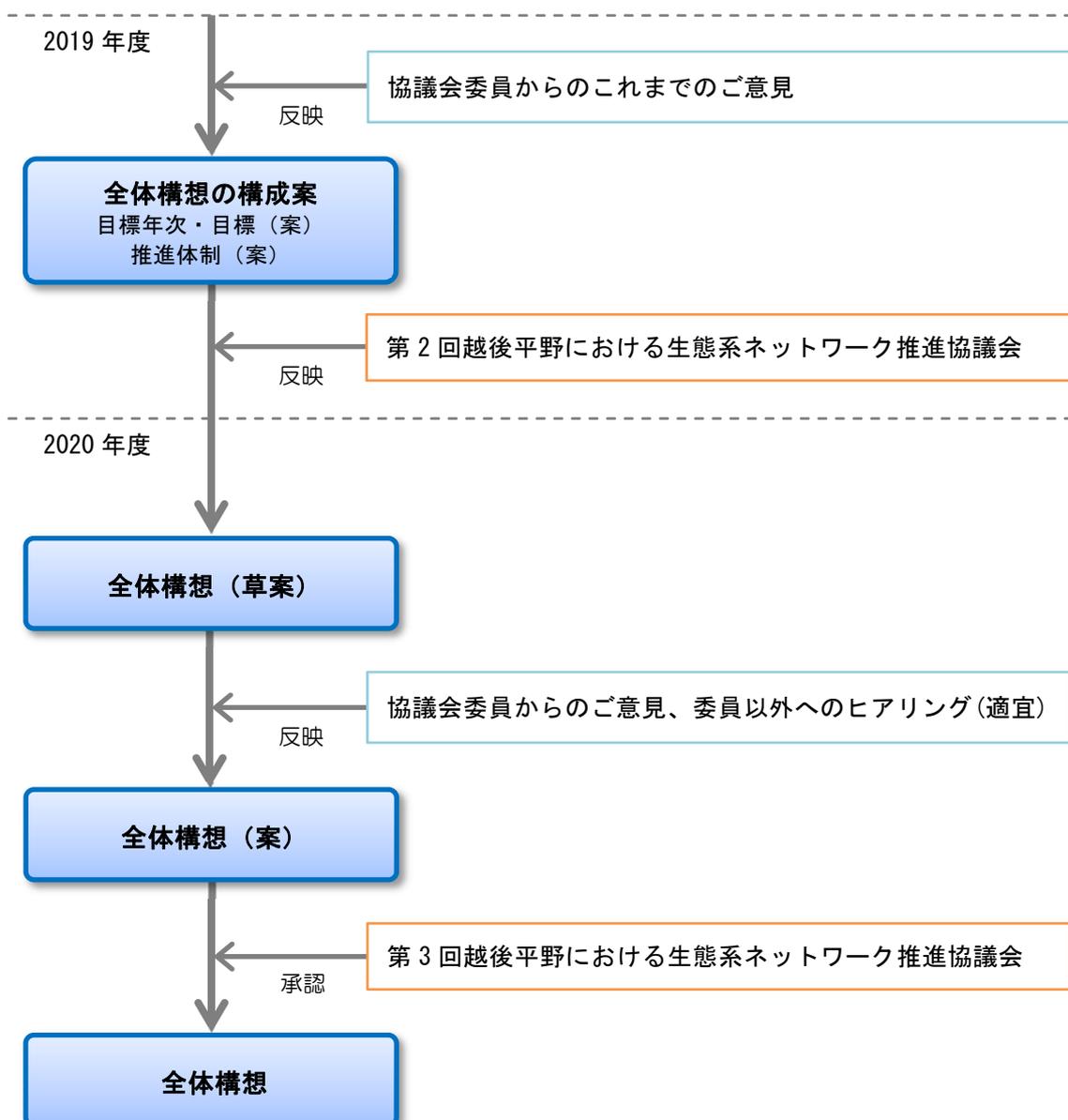
全体構想の策定に向けて

第 3 回越後平野における生態系ネットワーク推進協議会での策定を目指して、現在、「越後平野生態系ネットワーク全体構想」について検討を進めています。

■全体構想の位置づけ

「越後平野生態系ネットワーク全体構想」は、河川や田園、里潟等の水辺の生物多様性の保全及び持続可能な利用に向け、多様な主体が目標等を共有し、連携・協働による生態系ネットワークの形成を長期的視点から推進するために取りまとめるものです。

越後平野生態系ネットワーク全体構想の策定までの流れ



■越後平野生態系ネットワーク全体構想の構成案

他地域の既設協議会が策定する構想・計画等を参考にしつつ、「背景」「課題」「方針・目標」「推進体制」といった枠組みで、越後平野生態系ネットワーク全体構想の構成案について検討しました。

背景

越後平野における生態系ネットワーク形成を推進する社会的背景として、生態系ネットワークの基本的な考え方、越後平野に特徴的な大型水鳥について記述する。

- 1 生態系ネットワークの基本的な考え方
 - 生態系ネットワークとは
 - 生態系ネットワークの形成により期待されること
 - 全体構想の位置づけ
 - 対象地域
 - 河川を基軸とした生態系ネットワークの全国での取組み
- 2 越後平野に特徴的な大型水鳥
 - 指標種・シンボルとしてのトキ・ハクチョウ類
 - トキ
 - ハクチョウ類

課題

越後平野におけるトキ・ハクチョウ類の保全を通じた生態系ネットワークの形成につながる取組み、地域づくりの課題について記述する。

- 3 トキ・ハクチョウ類の保全と地域づくり
 - 越後平野における課題
 - 生態系ネットワークの形成につながる取組み

方針・目標

越後平野における生態系ネットワーク形成の基本方針と目標について記述する。

- 4 越後平野生態系ネットワークの方針・目標
 - 生態系ネットワーク形成の基本方針
 - 短期目標、中期目標、到達目標

推進体制

多様な主体の連携・協働により生態系ネットワーク形成を推進するための体制、具体的な取組みをまとめた「(仮称)越後平野生態系ネットワーク行動計画」今後の作成について記述する。

- 5 越後平野生態系ネットワークの推進体制
 - 多様な主体との連携・協働体制
 - 行動計画

■ 目標年次

越後平野における生態系ネットワークの形成に向け、国・県等の計画を踏まえた具体的な到達目標年次の検討を行いました。

到達目標年次

生態系ネットワークの形成には長期的視点を持った取組みが必要であることから、生物多様性条約第 10 回締約国会議で採択された「愛知目標」の中長期目標 (Vision) 年次でもある 2050 年を、到達目標年次とすることを提案します。この 2050 年という目標年次は、環境省策定の「生物多様性国家戦略 2012-2020」の長期目標年次、さらには国土交通省策定の「国土のグランドデザイン 2050～対流促進型国土の形成～」の目標年次とも合致するものです。

中期目標年次・短期目標年次

他地域の既設協議会では、中期目標年次や短期目標年次を設定している例が見られます。

例えば、域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想」では、2015 年の策定から 15 年後にあたる 2030 年を設定し、「コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済および社会を構成する様々な主体の参加で賑わっている」ことを中期目標の一つに掲げています。

本協議会においても、進捗の確認につながる段階的な目標年次の設定についても検討していくことが望ましいと考えます。

■目標

生息環境づくりや地域づくりの観点から、越後平野生態系ネットワークの到達目標案について検討しました。

今後、段階的な目標（中期目標、短期目標）の設定にあたっては、有識者や市民活動団体の代表者等の意見を取り入れた、到達目標からのバックキャストによる検討を行うことが望ましいと考えます。

【生息環境づくりの観点からの到達目標案の検討】

- トキ・ハクチョウ類が舞い降りる美しい河川や田園、里潟等の水辺が越後平野の各地に広がっており、これらが身近に暮らしていることが当たり前の風景となっている。
- 越後平野でもトキの安定的な繁殖・定着が各地で進み、年間を通じて身近な存在となっている。
- 越後平野の主要な水辺環境において、冬の訪れと共に、毎年安定した数のオオハクチョウ・コハクチョウの群れが飛来、越冬する姿が見られる。

【地域づくりの観点からの到達目標案の検討】

- トキ・ハクチョウ類の存在と美しい水辺環境が、越後平野で暮らす人々の誇りとなっている。
- トキ・ハクチョウ類をシンボルとした生態系ネットワーク形成の取組みが全国から注目され、地域ブランドの確立や観光振興を通じて、自然の価値や魅力を活かした地域づくりの一翼を担っている。

越後平野生態系ネットワークの到達目標案（2050年）

越後平野の全域において、河川や田園、里潟等の水辺の生物多様性の保全及び持続可能な利用のため、多様な主体の連携・協働による生態系ネットワークの形成が推進され、自然の価値や魅力を活かした地域づくりが実現されている。

【参考：関東エコロジカル・ネットワークの到達目標（2050年）】

コウノトリやトキが絶滅の危機から脱し普通種になっていると共に、河川や農地等の水辺には多様な生物にあふれた魅力的な空間が形成されている。また、自然空間を活かした賑わいのある地域づくりが進み、都心部とそれを取り巻く周辺地域との対流現象を契機に、グリーンインフラにより関東地域の安全・安心が担保され、環境と経済と社会が調和した持続可能な社会が形成されている。

出典：「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」より一部抜粋

■越後平野生態系ネットワークの到達目標と目標年次の設定案

戦略計画 2011-2020

ビジョン(中長期目標 [2050年])
「自然と共生する (Living in harmony with nature) 世界」

ミッション(短期目標 [2020年])
2020年までに、回復力があり、また必要なサービスを引き続き提供できる生態系を確保するため、生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急の行動を実施する。

20の個別目標 (愛知目標)

愛知目標のビジョンとミッション



持続可能な開発のための 2030 アジェンダ/SDGs
本協議会は特に目標 15 と目標 17 に貢献

愛知目標

- 所管：生物多様性条約締約国会議
- 目標年次：2020年(短期)

生物多様性国家戦略 2012-2020

- 所管：環境省
- 目標年次：2020年(短期)

トキ野生復帰ロードマップ 2020

- 所管：環境省
- 目標年次：2020年

社会資本整備重点計画(第4次計画)

- 所管：国土交通省
- 目標年次：2020年度

新潟県水環境保全基本方針

- 所管：新潟県
- 目標年次：2020年度

新潟県都市計画基本方針

- 所管：新潟県
- 目標年次：2020年度

東北圏広域地方計画

- 所管：国土交通省
- 目標年次：2026年(計画期間)

国土形成計画(全国計画)

- 所管：国土交通省
- 目標年次：2025年(計画期間)

新潟県総合計画「にいがた未来創造プラン」

- 所管：新潟県
- 目標年次：2024年度

広域都市計画マスタープラン策定基本方針

- 所管：新潟県
- 目標年次：2024年

新潟県環境基本計画

- 所管：新潟県
- 目標年次：2028年度

新潟県生物多様性地域計画 2017-2028

- 所管：新潟県
- 目標年次：2028年度

愛知目標

- 所管：生物多様性条約締約国会議
- 目標年次：2050年(中長期)

生物多様性国家戦略 2012-2020

- 所管：環境省
- 目標年次：2050年(長期)

国土のグランドデザイン 2050

- 所管：国土交通省
- 目標年次：2050年

国土形成計画(全国計画)

- 所管：国土交通省
- 目標年次：2050年(長期)

東北圏広域地方計画

- 所管：国土交通省
- 目標年次：2050年(長期)

越後平野生態系ネットワークの到達目標案(2050年※)

越後平野の全域において、河川や田園、里潟等の水辺の生物多様性の保全及び持続可能な利用のため、多様な主体の連携・協働による生態系ネットワークの形成が推進され、自然の価値や魅力を活かした地域づくりが実現されている。

※「愛知目標」や「国土のグランドデザイン 2050」の目標年次を参考に設定

【参考】関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会の目標

短期目標(2020年)

関東地域におけるコウノトリの野生復帰の取組みに多くの市民が参加し、協力する市民団体や企業等が広がっている。

中期目標(2030年)

コウノトリ・トキと共にくらせる地域を誇りとし、地域経済および社会を構成する様々な主体の参加で賑わっている。

到達目標(2050年)

コウノトリやトキが絶滅の危機から脱し普通種になっていると共に、河川や農地等の水辺には多様な生物にあふれた魅力的な空間が形成されている。
また、自然空間を活かした賑わいのある地域づくりが進み、都心部とそれを取り巻く周辺地域との対流現象を契機に、グリーンインフラにより関東地域の安全・安心が担保され、環境と経済と社会が調和した持続可能な社会が形成されている。

出典：「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想」(2015年3月策定)より一部抜粋

■ 「愛知目標」及び「国土のグランドデザイン 2050」について

Ⅰ 愛知目標について

所管：生物多様性条約締約国会議（日本政府も参画） 策定期：2010年

2010年に開催されたCOP10では、生物多様性に関する2011年以降の新たな世界目標である条約の新戦略計画が採択されました。愛知目標は、2050年までの長期目標(Vision)として「自然と共生する世界」の実現、2020年までの短期目標(Mission)として「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する」ことを掲げています。

■ 長期目標「自然と共生する世界」(2050年)

・長期目標(ビジョン)は、「自然と共生する」世界の実現が掲げられている。それは、「2050年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、そして賢明に利用され、そのことによって生態系サービスが保持され、健全な地球が維持され、全ての人々に不可欠な恩恵が与えられる」世界とされている。

■ 短期目標「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する」(2020年)

・2020年までの短期目標(ミッション)は、生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施すること。
これによって2020年までに回復力のある生態系と、そこから得られる恩恵が継続されることを確保し、そして、地球の生命の多様性を確保し、人類の福利と貧困解消に貢献するとされている。
・このためには、(1)生物多様性への圧力(損失原因)の軽減・生態系の回復・生物資源の持続可能な利用 (2)遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分 (3)適切な資金・能力の促進 (4)生物多様性の課題と価値が広く認知され、行動につながる(主流化) (5)効果的な政策の実施、予防的アプローチと科学に基づく意思決定、を必要としています。

Ⅰ 20の個別目標

目標1	人々が生物多様性の価値と行動を認識する	目標11	陸域の17%、海域の10%が保護地域等により保全される
目標2	生物多様性の価値が国と地方の計画などに統合され、適切な場合に国家勘定、報告制度に組み込まれる	目標12	絶滅危惧種の絶滅・減少が防止される
目標3	生物多様性に有害な補助金を含む奨励措置が廃止、又は改革され、正の奨励措置が策定・適用される	目標13	作物・家畜の遺伝子の多様性が維持され、損失が最小化される
目標4	すべての関係者が持続可能な生産・消費のための計画を実施する	目標14	自然の恵みが提供され、回復・保全される
目標5	森林を含む自然生息地の損失が少なくとも半減、可能な場合にはゼロに近づき、劣化・分断が顕著に減少する	目標15	劣化した生態系の少なくとも15%以上の回復を通じ気候変動の緩和と適応に貢献する
目標6	水産資源が持続的に漁獲される	目標16	ABSに関する名古屋議定書が施行、運用される
目標7	農業・養殖業・林業が持続可能に管理される	目標17	締約国が効果的で参加型の国家戦略を策定し、実施する
目標8	汚染が有害でない水準まで抑えられる	目標18	伝統的知識が尊重され、主流化される
目標9	侵略的外来種が制御され、根絶される	目標19	生物多様性に関連する知識・科学技術が改善される
目標10	サンゴ礁等気候変動や海洋酸性化に影響を受ける脆弱な生態系への悪影響を最小化する	目標20	戦略計画の効果的な実施のための資金資源が現在のレベルから顕著に増加する

出典：環境省HP「戦略計画2011-2020のビジョンとミッション及び個別目標『愛知目標』」を参考に作成

Ⅰ 国土のグランドデザイン 2050 について

所管：国土交通省 策定期：2014年

(前略) 2050年の目指すべき国土像を実現するため、12の基本戦略を定めることとする。

基本戦略(12) 戦略的サブシステムの構築も含めたエネルギー制約・環境問題への対応

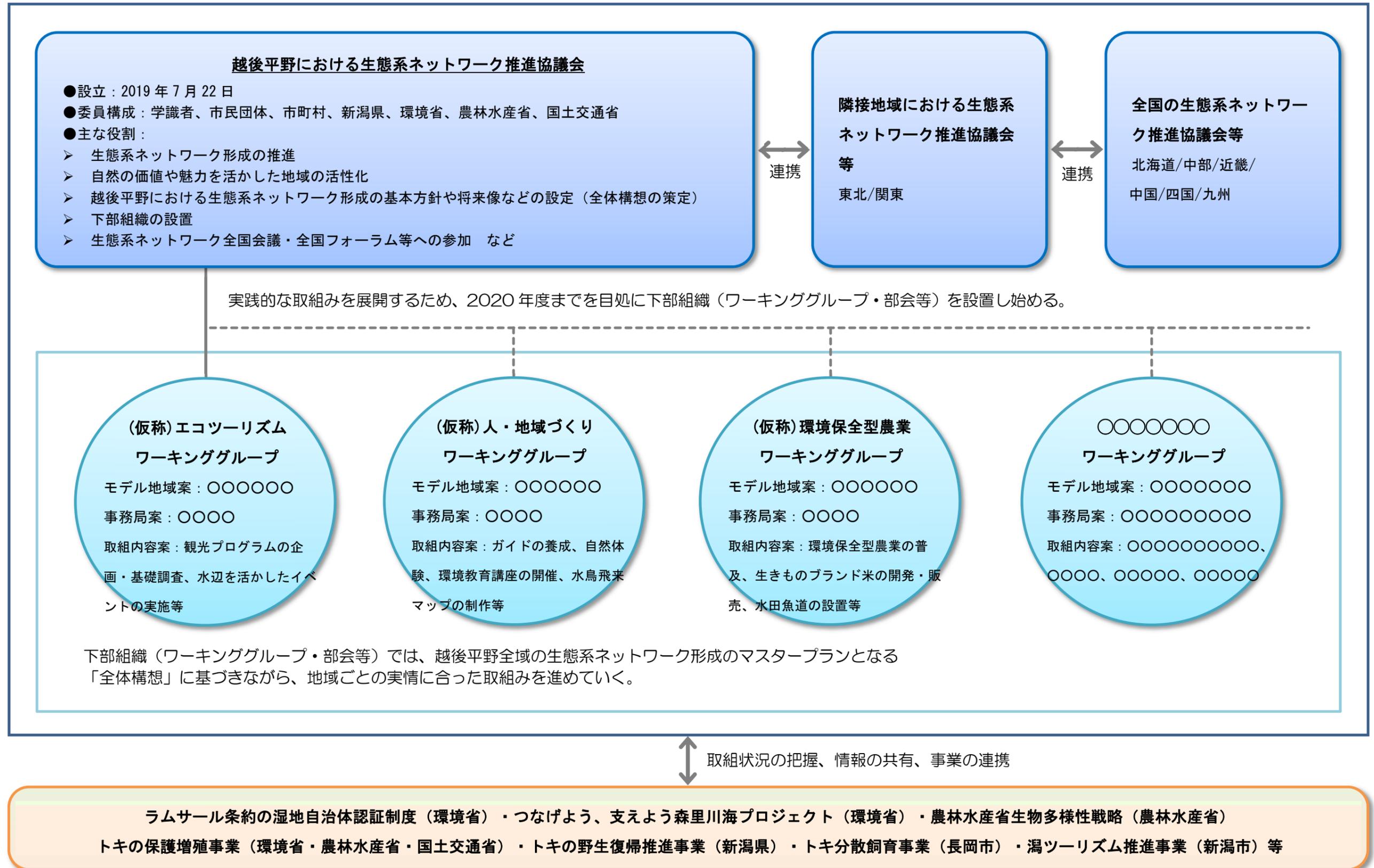
環境共生都市構築とその国際的推進を図るとともに、生態系ネットワークの更なる充実強化による生物多様性の保全と回復を図る。

出典：国土交通省(2014)：「国土のグランドデザイン2050」より一部抜粋

■ 推進体制

- 「越後平野における生態系ネットワーク推進協議会」の事務局は、設立時点において、国土交通省北陸地方整備局河川部に置かれています。
- 本協議会は、設立時点において、学識者、市民団体、自治体、関係行政機関により構成されています。今後は、より多様な主体が連携・協働しやすい体制を築くため、かつ自然の価値や魅力を活かした地域の活性化を目指すため、農業、観光業、製造・加工・流通業、金融業、報道機関などに関わる民間組織の参画について、全体構想の中で触れたいと思います。
- 地域の実情に合った取組みを展開するため、協議会の下に、流域レベル（または地域レベル）の関係主体から構成されるワーキンググループや専門部会を2020年度までを目処に置く体制について、全体構想の中で触れたいと思います。

■越後平野生態系ネットワークの推進体制（案）



■生態系ネットワークの形成拠点となる主な水辺

越後平野には、多くの野生の生きものの生息・生育空間となっている水辺が多く残されています。それらの中には、国際的に重要な渡り鳥の生息地としてラムサール条約湿地にも登録されている瓢湖や佐潟などの湿地も含まれます。今後は、地域の実情に即して生態系ネットワーク形成の取組みを進める先行モデル地域についても検討し、越後平野における全体構想や行動計画の策定につなげていきます。



佐渡市
トキの野生復帰



大陸から多くの
渡り鳥が飛来する
重要地域

- 既存中核地
- モデル候補地域(案)
- 既存ネットワーク
- 計画ネットワーク



信濃川やすらぎ堤



福島潟



亀田郷地区



瓢湖



信濃川上八枚地区



鳥屋野潟



阿賀野川焼山地区



阿賀野川論瀬地区

長岡市トキ分散
飼育センター

中之島地区

阿賀野川
自然再生計画